

事業名	路線バス維持対策事業	総事業費	12,366 千円
-----	------------	------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	公共交通の充実
	基本事業名	地域公共交通の利便性の向上

② 実施 (Do)

事業の意図		島内バス路線の確保・維持を図りながら、1市2町及び民間事業者等が連携し、種子島全体の新たな公共交通体系や計画を構築する。
事業の実績 と成果	取組内容	地域をまたいで運行する民間バス路線の確保・維持のため、1市2町による共同補助負担を行った。 【空港バス】種子島空港バス対策協議会へ1市2町共同で上限1,000万円の負担金（本市割当3,727千円）を支払った。 【幹線バス】運行事業者（有限会社大和バス）へ1市2町共同で上限2,500万円の補助金（本市割当8,639千円）を支払った。
	成 果	【空港バス】桜が丘及び松島バス停が廃止となったものの、種子島発着の航空機へ接続する形で、西之表港～空港路線が4便/日確保された。 【幹線バス】西之表港着の高速船へ接続する形で、種子島高校～南種子町役場前の路線が6便/日確保された。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	両路線とも乗客数が減少する中、負担金及び補助金支出の是非について再検討の必要性が求められてきていた。令和3年度に1市2町で種子島地域公共交通活性化協議会を設立しており、令和4年度に種子島公共交通計画（素案）を作成した。令和5年度からについては、策定する種子島公共交通計画に基づき、地域が主体となった持続可能な運行体制の構築に向けて、運行体制や運行形態を検討していく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	種子島の交通政策に関わる課題の整理に着手し、方向性を見出した。今後は具現化に向けた取組と種子島の交通政策と連動した市内公共交通のあり方の検討が求められる。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	補助条件、支払時期等について、1市2町で確認の上、実施する。 種子島地域公共交通計画で定めた将来像の実現に向けて、幹線バスにおける公有民営方式の導入に向けた検討を種子島地域公共交通活性化協議会の中で行っていく。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	地域公共交通活性化協議会運営事業
-----	------------------

総事業費	48,841 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	公共交通の充実
	基本事業名	地域公共交通の利便性の向上

② 実施 (Do)

事業の意図		交通弱者等の市内の移動が可能となる。
事業の実績 と成果	取組内容	市街地22箇所のバス停を1日6便×2系統（北回り、南回り）で循環する「わかさ姫」と、市街地（巡回バス停+病院3箇所+種子島高校の計26箇所）と大字の利用者宅を予約乗合型で結ぶ「どんがタクシー」の運行主体である、市地域公共交通活性化協議会の運営補助を行った。業務としては市補助金の交付、実績管理、事業の広報、台風時の対応、住民及び事業者対応、国庫補助金に係る事務等が挙げられる。
	成 果	【市街地巡回バス】年間利用者8,958人（前年度比101.2%）、令和4年度市民アンケートにおける「非常に満足、やや満足」の割合計82.3% 【デマンドタクシー】年間利用者14,924人（前年度比94.6%）、令和4年度市民アンケートにおける「非常に満足、やや満足」の割合計69.2% 《地域内フィーダー系統国庫補助金》3,323千円（うち巡回バス1,124千円、デマンドタクシー計2,199千円）

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 （事業担当者記入）	利用実態や利用者の声等を基に、適宜、利便性向上に向けた見直しや検討を実施している。運行経費の約9割が国及び市補助金で運行しており、収益性が低い。コロナの影響によりどんがタクシーについては利用者数が減少傾向にあるが、わかさ姫の利用者数については、増加してきている状況。そういった中で、令和5年10月からの運賃無償化の実施に向けて、各関係機関と協議を行いながら準備を進めていく必要がある。（車両の更新や、見直し等を含めて） また、種子島地域公共交通計画に基づき、幹線バス・空港バスとの接続や計画に記載する施策・事業の実施に向けて検討を進めていく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 （担当課長記入）	市内公共交通については、実証運行等をふまえ、10月からどんがタクシーの種子島高校へのバス停新設を行うとともに、利用者について「大字に住む人」から「大字と市街地を移動したい人」に拡大した。また、どんがタクシーへのE V車両導入により燃料費及びCO2ともに約55%の削減効果を得ている。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	利用実態や利用者の声等を基に、適宜、利便性向上に向けた見直しを実施する。（予約システムの導入など） 現在運行している、西之表市街地巡回バス「わかさ姫」及びデマンド型乗合タクシー「どんがタクシー」に関して、幹線バスの見直しに併せて適宜見直し等を実施する。 利用者負担の軽減等に向けた取組を実施する。（運賃無償化） E V車両の導入による実証運行を行う。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	種子島地域公共交通活性化協議会運営事業	総事業費	2,641 千円
-----	---------------------	------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	公共交通の充実
	基本事業名	地域公共交通の利便性の向上

② 実施 (Do)

事業の意図	島内移動の利便性が向上する。	
事業の実績 と成果	取組内容	令和3年度に設立した種子島地域公共交通活性化協議会にて、「種子島地域公共交通計画」の策定に向け、1市2町・関係機関と検討・協議を行ってきた。
	成 果	令和4年度に「種子島地域公共交通計画（素案）」を作成。令和5年4月からパブリックコメントを実施し、必要に応じて意見を反映させながら、「種子島地域公共交通計画」を策定する。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	「種子島地域公共交通計画」の将来像の実現に向けては、1市2町・関係機関と検討・協議を行っていく必要がある。特に、幹線バス・空港バスについては、運行体制や運行形態を大きく変更していく必要があることから、令和5年度はアドバイザー業務を活用し、幹線バスにおける公有民営方式の導入に向けて各関係機関と協議を行いながら、幹線バス、空港バスに対して、ルート・停留所・ダイヤ・料金設定・車両運用などの詳細な事業計画を作成する。また、併せて、各市町の支線部分との接続や計画に記載する施策や事業の実施に向けて検討を進めていく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	種子島地域公共交通計画の策定により、今後の幹線バス、空港バスの運行形態等について1市2町の行政や運行业者等の意見をとりまとめたことは大きな成果である。今後は具現化に向け、さらに連携を深めていく必要がある。

④ 改善 (Action)

2023年度方向性	種子島地域公共交通計画で定めた将来像の実現に向けて、幹線バスにおける公有民営方式の導入に向けた検討を種子島地域公共交通活性化協議会の中で行っていく。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明